

「女性」「高齢者」「車イス」の方にやさしい災害時トイレを!!

1. 能登地震・東日本大震災では

地震直後からトイレが利用できなくなり、バケツや便袋を使用していました。その為、胃腸炎やうつ病になられた方も多く、避難所に仮設トイレ・トイレカーが運ばれてきたのは震災から15日過ぎてからでした。



2. 藤沢市の災害時の備えは?

村岡地区の防災ベンチトイレを視察しました

藤沢市の貯留型防災ベンチ式マンホールトイレとは

ベンチの外見になっていて、蓋を開けると直径 30cmの管の上に便器が置かれます。テントでカバーされていますが、隣のテントとの間隔は20cm程しかなく、便器は貯蔵槽に直結してそこに貯める方式です。この形式だと、3日程度で貯蔵槽は汚物で満杯となり、バキューム車が少なくとも134台は必要となりますが、藤沢市では現在8台しかありません。

藤沢市にこの点を確認すると「便袋で対応します」との回答
仮に災害時に一人1日5回便袋を使用すると1日156万個の便袋が溜まることになります。

「多量の便袋をどこに置くのか」と聞くと「パッカー車が集めに来ます」との事。
今まで震災が起きた時に、道路が分断され車が走れないことを想定していないような発言!!

3. 現状の問題点を整理すると

- 管の中の汚物が丸見えであり、汚物の異臭も出る
- ハエ等が発生し不潔である上、手を洗う所もなく感染症の恐れがある
- 女性は不衛生なトイレを使うのが嫌で体調を崩す危険がある
(水分を取らない→トイレに行く回数を減らす→体と心に不調をきたす)
- トイレテントの間隔が接近しているので、特に女性は落ち着いて利用できない
- ベンチの高さがあるので子ども・高齢者・車イスの方は使いづらい

ベンチ式マンホールトイレ



下水管直結型マンホールトイレ

し尿は下流の下水管に流れていくので衛生的。藤沢市以外のほとんどの近隣他市では整備されている。下水本管が壊れても3日間汚物を貯められる貯留式と水洗式トイレを備えた市もあります。

お杉の結論

藤沢市では15年程前に作られた、貯留型方式のマンホールトイレを市内に435基設置していて下水管直結型マンホールは0です。

国は下水管直結マンホールトイレ設置には2分の1の補助金を出して推進しています。なのになぜ藤沢市はスピーディに動けない!!!

鵜南小学校建替え工事と並行して下水管直結型マンホールトイレを設置予定ですが、現地を近く視察し追ってご報告致します。



ベンチ式マンホールトイレ

**「災害時のトイレ」は命に関わる問題です。ぐずぐずしている暇はない!
早期の対応が必要です!!**

杉原えいこ公式サイト

杉原えいこ

検索

プロフィール
杉原 えいこ

昭和38年5月21日生まれ

連絡先

〒251-0046 藤沢市辻堂西海岸 1-5-6-12

E-mail eikosugihara521@gmail.com

経歴： 家業が傾き短大中退後、運送会社で経理として働き7年後退職。豪に留学。帰国後アップルコンピュータに勤務。4年間の授業料をアップルに負担頂き青山学院経営学部第2部を卒業。その後、エルメス、シマンテックなどの外資で35年勤務。2019年-2023年藤沢市議会議員を務めるも2023年落選。次を目指す。

TEL&FAX 0466-77-7265

